

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 1日

事業所名 ことばの教室ことのは

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0		
	2	職員の配置数は適切である	9	0	主に個別対応しているため、人員配置的には十分であると考えている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	3	イラストや写真等を使い、理解できるよう工夫している。バリアフリー化については、手すり等は設置している。	バルコニーの柵からの転落しないような対策は必要である。できるだけ早急に対策を実施したい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	1		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	2		定期的に全体で話し合う機会を設定したい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1	毎年この自己評価を参考にしたり、保護者からの要望等を元に業務改善を試みている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0	毎年事業所のホームページにて公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	2		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	年間通しての独自の研修計画や新人スタッフに対する新人研修プログラムを策定している。またFCの動画研修を取り入れたり外部の研修会に参加している。	
適切な支援	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	0	日常的な訓練や活動の申し送りの中でニーズ等を聞き取り、支援計画に反映させている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1	入会時に発達スケールを使用し児童の発達を把握。またK式発達検査を必要に応じて使用し把握している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	1		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	1		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	5	プログラム立案するための会議などはしていないが、利用児童の振り返りの中で、効果的な遊びについて話し合うこともある。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
サービスの提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	9	0	個別活動を基本に小集団遊びから集団活動などに発展させて活動を行なっている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	2	必ずではないが、前日にデイリーを職員向けに周知し、各自で動きのイメージを把握してもらう。また、活動の振り返りの際に職員の役割について共有している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	職員間の振り返りを記録し、共有のLINEにアップし、休みの職員にも様子等を共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	個別記録はSTが行っており、記録の時間もできるだけ確保し、記録漏れなどが内容チェックを別のスタッフで行なっている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9	0	モニタリング会議に参加、申し送りの中でニーズ把握、定期的な評価シートにて評価を行い、適宜個別支援計画の見直し作成を行なっている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	基本は担当の言語聴覚士が会議に参加している。参加できない場合は、相談員にこの活動の様子などを情報提供書等を提出している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	2		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	2		医療的ケア児がいないが、在籍している場合は保護者と基本連携をとりながら、必要に応じて関係期間と連携等が取れるよう整える予定。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	2		医療的ケア児がいないが、在籍している場合は保護者と基本連携をとりながら、必要に応じて主治医と連絡体制を整える予定。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	利用開始にあたって、関係者会議等に参加し、各機関等と顔合わせ、情報共有を行なっている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	利用開始にあたって、関係者会議等に参加し、各機関等と顔合わせ、情報共有を行なっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	3	主に研修等に参加させてもらうが、助言や連携まではほとんどない。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	6	定期的な交流ではなく、公園等で偶然に交流の機会や状況であれば一緒に遊べるようサポートしている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	5	糸満市の協議会に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	利用日には対面、又はLINE等でその日の活動や訓練の様子を申し送りして、事業所と家庭又は学校の様子等を含め情報共有を行なっている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	1	申し送りの際に保護者に対しベアトレの観点から関わり方のアドバイスや助言等を行なっている。	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	1	利用契約時にそれらの説明を行なっており、変更等があれば適宜説明を行なっている。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9	0		
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	申し送りの際に保護者からの悩み等について、必要な助言等を行なっている。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	8		当事業所では、保護者会等を行っていない。保護者にそのニーズがあるか聞いてみたいと思う。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	対面でご要望等のお話があれば、それに対し検討しご要望のご返答している。苦情があった際は迅速に対応し、その経緯等を会社全教室と共有している。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	2	活動の様子や行事等については、教室のブログやLINE等でその様子を発信、共有している。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	9	0		
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	イラストや写真等を使い、理解できるよう工夫している。保護者については該当者がいない。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	8	行事等への招待などは行っていないが、散歩等の活動で周辺住民に対し挨拶や子どもたちの活動の様子を話したりしている。	
	非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0	各種マニュアルを策定し、所定の場所に設置し、職員はいつでも確認できるようにしている。また、適宜保護者に当教室の対応手順を説明している。
42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		9	0	年に2度防火管理者立ち会いの下、避難訓練や通報訓練を中心に行なっている。	
43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		8	1		
44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		8	1	保護者よりアレルギーの有無を確認し、医師からの指示書を全職員で共有している。	
45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		9	0	事業所内だけでなく、全教室で事例を共有し事前防止、再発防止に役立てている。	件数が少ないという意見もあり、小さなヒヤリハットも記録し、小さな事故も未然に防げるようにしていきたい。
46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		8	1	虐待防止研修会を実施したり、虐待防止委員会での協議内容等を職員へ伝達共有している。	
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		6	3	やむを得ず身体拘束を行う場面が想定される児童については、個別支援計画に記載、また保護者に説明等を行なっている。該当児童はいない。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。